

## 20201219\_オンラインシンポジウム 質問への回答

Q1.10年後のスーパーシティの先の20年後、30年後どのような前橋になっているとお考えですか？（シンポジウム内で各登壇者にお話いただいたので、内容を抜粋しております。）

A.前橋市がスーパーシティになっていれば、住む人、働く人が増え活力のある光り輝くまちになっているのではないか。（田中仁氏）

2050年、誰も知られていないまちでも、都市政策のエビデンスからも30年間で全く違うステージに進化できるのが今の時代。小さなまちでも世界中の方が興味を持って訪れるインバウンド的視点も踏まえ、全く違うまちになるのではないか。（谷川じゅんじ氏）

30年後は今10歳の子が40歳になる。その子たちが暮らし続けたいと思えるまちになるのではないか。30年後、今のまちづくりの分岐点は2020年だったと振り返ったときに、前橋市のようなチャレンジするまちが全国に広まるのではないか。その先駆けが前橋だと思われるようになるのではないか。（大森昭生氏）

このチャレンジする姿勢が日本の標準装備になるのではないか。スーパーシティの取り組みは合理的であり、ピンポイントで市民にサービスを届けられる。予防接種を打つときは忘れられないように子どもたちにメールをしている。それは市民のみなさまが我々を信頼して母子健康情報を提供いただいているのでできることである。ある意味30年後は、ただ単に便利になるだけでなく、市民との信頼関係が築けているまちになると願っている。（前橋市長）

Q2.スーパーシティは、高齢者のためにやるものなのですか？

A. スーパーシティは高齢者を含む市民が抱えている課題を最新技術や新しい仕組みを用いて解決するもので、前橋市民全員のために行うものです。

Q3.今話題の格安スマホプラン(月1980円20GB)を扱っている日本通信が“まえばしID”を作るとのことですが、詳細はどうなっているのでしょうか。セキュリティは大丈夫ですか。電子証明認証？FPOS？

A. まえばしIDは、病院であれば医療情報、金融機関であれば口座情報といったように、民間や行政が分野ごとに管理している複数のデータを連携して、活用できるようにするための仕組みです。各データは領域ごとに分散して管理され、必要なときに個人の合意がない限りは活用することができません。

また、まえばしIDには、安心安全で便利な仕組みを担保するための3つの特徴があります。

1つ目は、都度暗号化する2種類のデジタル鍵による暗号化技術を用いたデータ保護に関する

るセキュリティの高さです。

2つ目は、顔認証やスマートフォンによる非接触認証を通じた本人認証の利便性の高さです。

3つ目は、マイナンバー法や電子署名法といった既存の法律に裏打ちされた仕組みであるため、法的な説明責任を果たせ、利活用の幅が広いことです。

スーパーシティにおいては、このまえばし ID によって本人確認が必要な行政サービス・民間サービスの双方の利便性向上やキャッシュレスによる顔認証での決済などの活用が想定されます。

Q4.前橋は自動運転もやっていますが将来の構想はどうなんでしょうか？マイバスの自動運転になると便利になると思います！

A. 自動運転を含む交通分野については分野の一つとして前橋市スーパーシティ準備検討会で検討しておりますので、マイバスなどの具体的な路線についてはご意見として参考にさせていただきます。